

知的障害者にむけた医療情報の ニーズに関する検討

—支援者インタビューを通じた情報伝達の優先度に着目して—

○堀川 諭 (京都産業大学外国語学部・9560)

打浪 文子 (淑徳大学短期大学部・7714)

Key word : わかりやすい情報提供・がん・意思決定支援

1. 研究目的

- がん等の重篤なる疾患にも罹患する知的障害者、治療方法の選択に際しては、患者の意思を尊重し、適切なケアを提供する。また、患者の生活の質を向上させるための支援を行う。この研究では、がん患者の意思決定に際しては、患者の意思を尊重し、適切なケアを提供することを目的とする。
- 国外の研究では知的障害者の受診時の説明に絵などを用いることの有効性はすでに指摘されているが（Sueほか：2019）、どのような情報をどのような優先順位で伝えることが望ましいかという点までは検討が進んでいない。
- そこで本研究では、知的障害者にも理解しやすい「大腸がん」冊子の「わかりやすい版」を試作することを視野に、支援者への聞き取り調査から、知的障害者向けの医療面での情報提供の具体的な様相と、情報提供におけるニーズを把握する。

3. 倫理的配慮

- 面接調査で得られた情報はパスワードが必要なPC等に保存することや、研究への協力を中止できることなどを書面に記した研究説明書を使用して口頭で説明し、同意書にインタビュー対象者の署名を得た。また、本報告の前に、内容およびプライバシーに関する確認を得た。
- 日本社会福祉学会の「研究倫理規定」に従い、調査対象者および対象者が支援する障害当事者のプライバシーに配慮し、対象者はA～R、対象者が所属する施設はV～Zとして表記する。
- なお、本研究は第二筆者の所属先である淑徳大学短期大学部の倫理審査委員会で審査を受け、2019年9月に承認されている（申請番号2019-102）。

4. 研究結果 ①

- 調査対象者（年齢・経歴は2020年1～2月時点）

	調査対象者（支援者）の属性
施設V	A氏（40代女性。20年以上勤務。相談支援専門員4年目）
施設W	B氏（40代女性。知的障害者支援歴20年以上） C氏（40代男性。16年勤務。相談支援専門員約8年） D氏（60代女性。約40年勤務。相談支援専門員約8年）
施設X	E氏（60代女性。訪問介護事業所管理者。福祉従事40年以上） F氏（50代女性。介護福祉士18年目） G氏（50代女性。相談支援専門員約18年）
施設Y	H氏（20代男性。勤務4年目） I氏（40代女性。別の施設含め勤務計6年） J氏（50代女性。勤務4年目）、K氏（20代女性。勤務4年目） L氏（20代女性。勤務3年目）、M氏（20代女性。勤務3年目） N氏（60代男性。知的障害者支援歴30年以上）
施設Z	O氏（60代女性。勤務8年目）、P氏（女性。福祉関係勤務歴40年） Q氏（60代女性。看護師歴40年）、R氏（40代男性。相談支援専門員6年目）

4. 研究結果 ②

当事者に伝えるべき情報の優先順位という観点から発言内容を分析したところ、カテゴリーとして「**見通しの提示**」「**不安への対処**」「**治療・検査法の説明**」「**症状・現状の説明**」に分類された。

• 「見通しの提示」

「『どこの病院に行くんだよ』、『こういうベッドに寝ますよ』。治療することと、『1カ月ぐらいお泊まりになりますかね』とか」(C氏)

「『リハビリとか一生懸命やると、早めに帰れるよ』みたいな」(O氏)

「『これからおなかが痛くなるらしいよ』とか『ちょっと下痢っぽくなるらしいよ』とか」(A氏)

• 「不安への対処」

「ご本人的には手術イコール怖い、死ともつながる」「あまり不安をあおるような言葉を使う説明はしたくないかなというのが一番ですかね」(K氏)

「『大丈夫ですよ』をどう伝えるか(が重要)」(N氏)

「可能性として転移があるよ、という話はあまりしないですね」(B氏)

4. 研究結果 ③

• 「治療・検査法の説明」

「がんのステージでなんとかだよと言われても、分からないので、『すごくおっきいみたい』とか、『まだ小さいんだけど、今のうちに取るといいみたい』みたいな感じとか」「『放射線治療をこの後するよ』と言われても、放射線治療が分からない。よく分からないけど、『何分間じっとしてなきゃいけないみたいだけどできる？』みたいなところとかの説明が難しかった」(B氏)

「たぶん取るというしかないと思うんですね。『悪いところを取ります』という感じかな」(K氏)

「『ばい菌があるから取れば治るよ』、そういうぐらいな感じで終わっちゃってるかもしれない」(D氏)

• 「症状・現状の説明」

「今どういう状態で、どうしなきゃいけないのかというところがたぶん必要なので」(B氏)

「痛みが出てきたら、その痛みの理由は最初に伝えたいなと思う」「ここにできものができているとか」(C氏)

「体の指さしてあげて、『ここが悪いんだよ』というふうな言い方であれば、分からなくもないかな」「まずどこが悪いのかというのはお伝えするのかな」(K氏)

謝辞・参考文献等

【謝辞】

- 本研究は、JSPS科研費（18K12987）の成果の一部である。
- 調査対象者の方々に深く御礼申し上げます。

【参考文献】

- 国立がん研究センター がん情報サービス がんの冊子「大腸がん」
https://ganjoho.jp/data/public/qa_links/brochure/103.pdf
(2020年7月31日アクセス)
- Kyle Sue, Paolo Mazzotta, Elizabeth Grier (2019) : Palliative care for patients with communication and cognitive difficulties, Canadian Family Physician, Vol 65(1), 19–24.
- 佐藤郁哉(2008)『質的データ分析法』新曜社